

社会福祉法人足柄緑の会

令和2年度事業報告

目次

1	社会福祉法人足柄緑の会	1～4
2	法人利用者状況等	5～11
3	コスモス学園中沼ジョブセンター	12～19
4	コスモス学園中沼ジョブセンター 生産事業部	20～22
5	コスモス学園中沼ケアセンター	23～25
6	居宅介護事業所それいゆ	26～27
7	コスモス学園松田センター	28～32
8	相談支援事業所あすなる	33～35
9	コスモスホーム	36～39

1. 社会福祉法人 足柄緑の会

1. 概況

令和2年11月23日に、理事長が、林 淳から関野 純一へ交替した。

(1) 新型コロナウイルス対策

新型コロナウイルス事業継続計画および、行政からの指示・要請に基づいた対応策を職員へ周知徹底するとともに、近隣法人との情報交換を密にした。

利用者・保護者に対し、コスモスホーム短期入所の制限ならびに、感染拡大防止策の徹底をお願いした。

(2) 行事

令和2年度は、新型コロナウイルスの影響を受け、納涼大会、運動会、学園祭、バス旅行等、主行事が中止となった。

また、アロマセラピー等室内プログラムは回数を減らした。

入所式、成人式、クリスマス会（事業所毎）は、安全対策を十分考慮した上で実施した。

2. 法人運営

(1) サービスの質の向上

① 就労移行支援・就労継続支援B型部門

ア 受注・カフェ・就職状況

- ・ 受注業務は、新型コロナウイルスの影響で減少した。
- ・ 施設外就労の新規先として、A社を開拓し、8～9名で対応した。
- ・ カフェ・デ・ソルは、弁当配達事業に絞り、近隣からは一定の評価を得た。
- ・ 今年度、就職者はいなかったが、すでに一般就労している1名のフォローアップ支援を行った。

イ プラスチック成形

- ・ B社、C社からの受注が大きく減り、全体として、対前年比約20%の売上減となった。
- ・ D社向け製品に品質クレームが発生したが、計量器を開発導入し、その改善に努めた。
- ・ ISO9001は改善活動を継続し、外部審査は特段の問題はなかった。

② 生活介護部門

利用者の意思決定に基づいた支援に努めた。職員間の情報共有に力を入れ、支援の幅を広げた。

アロマセラピーやフラワーアレンジメント、セラピー犬、お茶、音楽療法等、室内プログラムを計画したが、計画通りには実施できなかった。

③ 共同生活援助部門（グループホーム）

本人の意向を尊重し、自立に向けた支援に取り組んだ。余暇活動については、コスモスホーム内で実施できる内容にした。

地域の催し物はすべて中止となった。

④ 居宅介護（ヘルパー）部門

通院介助を開始し、サービスの幅を広げることができた。法人内各事業所との連携が進み、利用時間が増加した。

⑤ 相談支援部門

関係機関との連携を深め、相談支援の質の向上を図った。

(2) 職員の教育・育成

① 各種団体等による職員研修は、中止となったものが多く、参加させることができなかった。

② 年2回の職員研修は、前期、後期とも、外部講師による集合研修ではなく、事業所ごとにそれぞれテーマを決めた研修を実施した。

③ 新入職員獲得の対面活動は、すべて中止となり、大学、専門学校、神奈川県社会福祉協議会の福祉人材センターに対して、電話による活動を行った。

(3) 法人の社会的責任の遂行・地域における公益的な取組

① 支援の現場や事業所会議において、虐待防止、人権擁護に向けた取組を行った。

② 地域における公益的な取組

ア 地域の他機関とのネットワーク活動

災害対応訓練、権利擁護支援（KWネット）、相談支援ネットワーク等の施設間連携事業へ参加することにより、行政、他の福祉施設、医療機関等と連携、協働を図った。

イ カフェ・デ・ソルにて年11回開催予定であった「ほっとカフェ」（認知症カフェ）は、すべて中止となった。

③ 災害時事業継続計画、新型コロナウイルス事業継続計画を策定し、リスクへの対応に取り組んだ。

④ リスクマネジメント、権利擁護に関する状況等を理事会で報告した。

⑤ プラスチック成形に対する企業による監査、ISO9001監査の結果を理事会で報告した。

⑥ KESは、環境改善目標を概ねクリアした。

(4) 法人の法令順守と財務安定化

- ① 役員研修として、神奈川県福利協会からの、BCP研修を予定したが、実施できなかった。
- ② 幹部職員との定例ミーティングにより、情報の共有を図り、規程の変更、業務内容の整理等を行い働き方改革に対応した。
- ③ 新型コロナウイルスが蔓延する厳しい状況下において、幸いにも利用者・職員の感染者が出ておらず、前年度より利用率が上がり、経費節減に努めた結果、事業活動収支は前年度より伸ばすことができた。

3. 理事会・評議員会実施報告

(1) 理事会

令和2年度第1回理事会 令和2年5月21日（木）

- 第1号議案 令和元年度事業報告の承認の件
- 第2号議案 令和元年度計算書類等の承認の件
- 第3号議案 設備等整備積立金取崩の件
- 第4号議案 定款変更の件
- 第5号議案 役員等報酬規程変更の件
- 第6号議案 定時評議員会の招集の件

令和2年度第2回理事会 令和2年7月27日（月）

- 第1号議案 コスモス学園中沼ジョブセンター 就労継続支援B型 運営規程の変更の件

令和2年度第3回理事会 令和2年9月28日（月）

- 第1号議案 給与規程の変更の件

令和2年度第4回理事会 令和2年11月23日（月）

- 第1号議案 コスモス学園中沼ジョブセンター昇降機改修工事の件
- 第2号議案 設備資金借入の件
- 第3号議案 資金運用規程の新設の件
- 第4号議案 経理規程の変更の件
- 第5号議案 理事長の交代の件
- 第6号議案 社会福祉法人神奈川県社会福祉協議会からの社会福祉事業振興資金借入に係る連帯保証人変更の件
- 第7号議案 独立行政法人福祉医療機構からの設備備品整備資金借入に係る連帯保証人の変更（保証人不要制度に変更）の件
- 第8号議案 コスモス学園中沼ケアセンター車両（マイクロバス）買替の件

令和2年度第5回理事会 令和3年1月29日(金)

- 第1号議案 令和2年度第1次補正予算承認の件
- 第2号議案 令和2年度資金運用計画等承認の件
- 第3号議案 令和3年度資金運用計画等承認の件
- 第4号議案 就業規則の変更の件
- 第5号議案 パートタイム・有期雇用労働者就業規則の変更の件
- 第6号議案 無期転換職員就業規則の変更の件
- 第7号議案 人事異動の件

令和2年度第6回理事会 令和3年3月26日(金)

- 第1号議案 令和3年度事業計画承認の件
- 第2号議案 令和3年度予算承認の件
- 第3号議案 職務権限規程の変更の件
- 第4号議案 給与規程の変更の件

(2) 評議員会

定時評議員会 令和2年6月11日(木)

- 第1号議案 令和元年度計算書類等の承認の件
- 第2号議案 定款変更の件
- 第3号議案 役員等報酬規程の変更の件

(2) 利用者年齢構成状況

令和3年3月31日付

年 齢	18～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70歳 以上	合 計	平均年齢
就労移行 C	男	1		1						2	20.5
	女	2	1							3	20.0
	計	3	1	1						5	20.3
就労継続 C	男		6	9	4	10	2	2		33	37.2
	女		1	4	4	2	3	1		15	37.7
	計		7	13	8	12	5	3		48	37.5
日中一時 C	男			1	1			1		3	41.7
	女				2					2	37.5
	計			1	3			1		5	39.6
中沼 C	男	2		4	5	4	1			16	34.5
	女		3	1	9	4	1		1	19	37.0
	計	2	3	5	14	8	2		1	35	35.8
就労継続 C	男		4	7	5	2	1	1		20	32.7
	女		1	1	4		1		1	8	34.3
	計		5	8	9	2	2	1	1	28	33.5
日中一時 C	男		1		2	1				4	32.8
	女										
	計		1		2	1				4	32.8
生活介護 C	男	1	4	10	2	1				18	26.8
	女		1	4	2					7	26.7
	計	1	5	14	4	1				25	26.8
										全平均	32.3
										男性平均	32.3
										女性平均	32.2

年 齢	18～19 歳	20～24 歳	25～29 歳	30～39 歳	40～49 歳	50～59 歳	60～64 歳	65～69 歳	70歳 以上	合 計	平均年齢
ホーム C	男		1	2	4	5	1	3		16	41.0
	女		2	2	5	1	2	1		13	36.0
	計		3	4	9	6	3	4		29	38.5

(3) 医療状況

内科検診

月/日	中沼JC	中沼CC	松田C	合 計
10/12	49	33		82
10/14			47	47
3/24			45	45
計	49	33	92	174

利用者健康診断(JA)

月/日	中沼JC	中沼CC	松田C	合 計
3/9			49	49
3/15	49	31		80
計	49	31	49	129

歯科検診

月/日	中沼JC	中沼CC	松田C	合 計
11/25			40	40
1/18	43	29		72
計	43	29	40	112

インフルエンザ予防接種(任意)

月/日	中沼JC	中沼CC	松田C	合 計
11/9	40	31		71
11/25			40	40
計	40	31	40	111

(4) コスモス会(自治会)活動状況

項目	実施	場所
自治会役員定例会議	11回/年	中沼ジョブセンター会議室 松田センター食堂
全体会	12回/年	中沼ジョブ・ケアセンター作業室 松田センター作業室
献立会議	4回/年	中沼ケアセンター食堂 松田センター食堂
行事準備(買出し等)	中止	
学園行事担当	中止	

(5) 行事实施状況

実施日	行事名	場所
R2.4.4	入所式(中沼ジョブセンター)	中沼ケアセンター1階作業室
R2.7.11	納涼大会(中沼ジョブセンター)	中沼ジョブセンター2階
	納涼大会(中沼ケアセンター)	中沼ケアセンター1階作業室
	納涼大会(松田センター)	松田センター
R2.9.11	コスモス運動会(中沼ジョブセンター)	中沼ジョブセンター2階
	コスモス運動会(中沼ケアセンター)	中沼ケアセンター1階作業室
	コスモス運動会(松田センター)	松田センター
R2.10.10	コスモス学園祭(中沼ジョブセンター)	中沼ジョブセンター2階
	コスモス学園祭(中沼ケアセンター)	中沼ケアセンター1階作業室
	コスモス学園祭(松田センター)	松田センター
R2.12.18	クリスマス会(中沼ジョブセンター)	中沼ジョブセンター2階
	クリスマス会(中沼ケアセンター)	中沼ケアセンター1階作業室
	クリスマス会(松田センター)	松田センター
R3.1.9	成人式(中沼ジョブセンター)	中沼ジョブセンター2階
	成人式(松田センター)	松田センター
R3.2.19	レクリエーション(中沼ジョブセンター)	中沼ジョブセンター2階
	レクリエーション(中沼ケアセンター)	中沼ケアセンター1階作業室
	レクリエーション(松田センター)	松田センター

(6) ボランティア状況

受入人数 15 名

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
中沼JC						2		2					4
中沼CC							3	3	3				9
松田C								1	1				2
コスモスホーム													
イベント													
合計人数						2	3	6	4				15

(7) 防火・防災 訓練実施状況

参加総数 318 名

実施日	訓練内容	事業所	参加人数
8/27	避難訓練 (地震想定)	松田センター	43
9/27	総合防災訓練	コスモスホーム	17
10/3	避難訓練 (火災想定)	中沼ジョブセンター 中沼ケアセンター	103
2/27	避難訓練	コスモスホーム	18
3/24	避難訓練 (火災想定)	松田センター	45
3/26	避難訓練 (地震・火災想定)	中沼ジョブセンター 中沼ケアセンター	92
		合計	318

(8) 研修・実習等受入状況

受入総数 9 名

実施日	研修・実習名	人数
8/28～9/11	鎌倉女子短期大学保育実習(松田センター)	2
9/3～9/17	鎌倉女子大学相談援助実習(中沼ジョブセンター)	2
9/28～10/9	小田原養護学校3年生校外実習(中沼ジョブセンター)	1
1/19	小田原養護学校3年生校外実習(中沼ケアセンター)	1
1/26	小田原養護学校職場1日体験実習(中沼ジョブセンター)	1
3/15	小田原養護学校2年生体験実習(松田センター)	1
3/23	小田原養護学校2年生体験実習(松田センター)	1
	合計	9

(9) 令和2年度職員配置状況

	所長	部長	サービス管理責任者	サービス提供責任者	支援員	相談支援専門員	ヘルパー	世話人	生産事業部	看護師	栄養士	事務員	合計
中沼 JC (生産事業部)	兼務	1	1		14				7				23
中沼 CC	兼務		1		22					1			24
それいゆ	兼務			1			9						10
松田C	1		1		19					7			28
あすなろ	兼務					1							1
コスモスホーム	1		1		4			21		1			28
総務部		1										3	4
合計	2	2	4	1	59	1	9	21	7	9	0	3	118

令和元年度職員配置状況 <比較資料>

	所長	部長	サービス管理責任者	サービス提供責任者	支援員	相談支援専門員	ヘルパー	世話人	生産事業部	看護師	栄養士	事務員	合計
中沼 JC (生産事業部)	兼務	1	1		14				8				24
中沼 CC	兼務		1		20					1			22
それいゆ	兼務			1			8						9
松田C	1		1		19					7		兼務	28
あすなろ	兼務					1							1
コスモスホーム	1		兼務		4			24		1			30
総務部		1										3	4
合計	2	2	3	1	57	1	8	24	8	9	0	3	118

(10) 令和2年度採用・退職状況

事業所	採用	退職
中沼 JC	2	2
(生産事業部)	1	1
中沼 CC	5	1
松田 C	3	2
コスモスホーム	2	5
あすなろ		
それいゆ		
総務部		
合計	13	11

令和元年度採用・退職状況 <比較資料>

事業所	採用	退職
中沼 JC	1	3
(生産事業部)		
中沼 CC	2	4
松田 C	5	4
コスモスホーム	2	
あすなろ		
それいゆ		
総務部	1	
合計	11	11

(11) 令和2年度 職員研修出席状況

日時	研修会名	人数
8/19	WEBセミナー 福祉施設の給料制度構築法	1名
9/7、17	WEBセミナー 社会福祉法人の経営力強化 ～財務会計と労務管理～	1名
10/2	WEBセミナー 同一労働同一賃金への対応 2021年4月の適用に備えるキャリアパス点検のポイント	1名
10/26、11/7	令和2年度 専門コース別研修 精神障害者支援の障害特性と支援技法(1日目:WEB、2日目出張)	1名
11/2	販売の総合力を身につける トータルでの販売力を考えよう!	1名
11/2、12/18	WEBセミナー 令和2年度 社会福祉法人会計簿記研修	1名
11/24	令和2年度第3回神奈川県指定障害福祉サービス 事業者等に対する指導講習会	1名
12/16	WEBセミナー 「福祉施設向け」新型コロナウイルス感染症対策 BCPセミナー	1名
12/22	令和2年度 神奈川県サービス管理責任者更新研修	1名
2/25	WEBセミナー 新型コロナウイルス感染症とメンタルヘルス	1名
	令和2年度職員研修	
6/12	中沼ジョブセンター 「M・Mさん就労支援事例検討」	5名
	中沼ケアセンター 「部課長報連相ゲーム」	5名
	松田センター・あすなろ 「安全について再確認する。意識する。」	9名
	それいゆ 「行動が起きている理由『K・Oさん』『K・Iさん』の事例検討」	4名
	コスモスホーム 「青空プランⅢについて再認識」「接遇のグレーゾーンを考える」	4名
2/11	中沼ジョブセンター 「個別支援計画、意思決定支援について」	5名
	中沼ケアセンター 「発達障害、意思決定支援、情報共有について」	5名
	松田センター・あすなろ 「利用者ニーズの取り組みについて」	9名
	それいゆ 「現状の介助方法の確認及び接遇について」	4名
	コスモスホーム 「権利擁護について」	4名

3. コスモス学園中沼ジョブセンター

1. 事業内容 就労移行支援

2. 利用者在籍状況 定員6名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	24
女	2	2	2	2	3	3	3	3	3	3	3	3	32
計	4	4	4	4	5	5	5	5	5	5	5	5	56
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入所	2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	3

3. 平均利用率・累計利用人数

(1) 令和元年度 40.3% 652名

(2) 令和2年度 78.4% 1,277名

今年度は、新たに2名の利用者が新卒で加わり、また8月に離職した利用者が1名増えた。

4. 就労活動

(1) ビジネスマナー

就労経験のないメンバーとなり、座学にて以下の内容に取り組んだ。

- ① 就労に必要な力をつけるため イ、呼ばれたら返事をする。ロ、一生懸命行う。ハ、人に迷惑をかけない。ニ、自分のことは自分で行う。

4つの項目を日々目標に掲げて取り組んでいる。

- ② 挨拶、返事、身だしなみ、生活リズム、服薬管理、公共交通機関の利用法、携帯電話の使用マナー等重要性を伝えている。日中活動での作業を通じて、ビジネスマナーで学んだことを繰り返し実践した。

(2) 実習支援

① 職場体験実習

E社 1名

E社にて、野菜の袋詰め、値札付けの実習を行っている。

今年度は、新型コロナウイルス感染の影響から、求人数も少なく、受入先企業が見つからず実習支援は1件のみとなった。

② 施設外就労

令和2年8月より、A社（南足柄市内）にて、施設外就労支援をスタートしている。box折り作業を、日々納期に間に合うよう生産性を重視した作業に

取り組んでいる。内職メーカーということもあり空き時間は、いろいろな軽作業にも取り組むため、作業工程を短時間で理解するなど臨機応変な対応力を養うことができている。また、職場のルールや身だしなみも意識できるようになっている。

(3) 求職活動支援

- ① 月に1回ハローワーク求人情報を検索するとともに、相談援助窓口担当者と連携し、最新の求人票が入手できるようになった。
- ② 求職登録者が自分でハローワークにて求人検索ができるよう支援した。
- ③ 求人に応募したが、新型コロナウイルスの影響で面接ができず、書類審査のみとなってしまった。
- ④ 就労支援センターぽけっと、パレットはだのと共同で就労定着支援を行った。

(4) フォローアップ支援

1名の職場定着支援を行っている。職場環境の変化や本人の精神状況の悪化により7月末にて退職となっている。その後、就労移行支援にて再支援を行っている。

5. 就労移行実績

令和2年度は新型コロナウイルスの影響で、応募もままならない状態で、企業の受入も少なかった。

令和2年度就職者数0名

6. 職員研修

- ① 6月12日(金)正職員のみの小規模で行った。就労支援について1つの事例を深く掘り下げ、環境設定の重要性、他機関連携、生育歴等の過去の情報から得られる課題解決へのヒント、就労準備支援の在り方、一般就労のタイミングなど話し合い、支援スキルの向上を図った。
- ② 2月11日(木)正職員のみ的小規模で研修を行った。「今、障害者施設に求められる支援」をテーマに、意思決定支援の考え方を共有し個別支援計画に反映できるよう学びを深めた。

7. 地域活動

開催日	行事名	場所
毎月第4木曜日(8月除く)	ほっとカフェ(中止)	カフェ・デ・ソル
5月	みんなのつどい(中止)	小田原アリーナ

7月	納涼大会（中止）	中沼ケアセンター中庭
10月	学園祭（中止）	中沼ケアセンター中庭
12月	県西地区文化事業（中止）	川東タウンセンターマロニエ

8. 支援他

- （1）個別支援計画面談を6月、9月、12月、3月に実施した。
- （2）中沼ジョブセンター会議を毎月1回開催した。
- （3）工賃会議を8月、1月に実施した。
- （4）利用者健診
 - ・健康診断を年1回実施した。
 - ・内科健診を年2回実施した。
 - ・歯科検診を年1回実施した。
 - ・インフルエンザ予防接種を11月に実施した。

コスモス学園中沼ジョブセンター

1. 事業内容 就労継続支援B型

2. 利用者在籍状況 定員34名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	33	396
女	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	14	168
計	47	47	17	47	47	47	47	47	47	47	47	47	564
退所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
入所	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3. 平均利用率・累計利用人数

(1) 令和元年度 119.2% 10,603名

(2) 令和2年度 117.6% 10,537名

今年度、新利用者は就労移行支援での受入のため、就労継続支援B型在籍者の増減はなかった。

4. 工賃実績

月	上半期							下半期							年間合計
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	10月	11月	12月	1月	2月	3月	小計	
工賃支払対象者数	41	41	41	41	41	41	246	41	41	41	41	41	41	246	492
工賃支払総額	581,050	627,650	598,270	595,130	578,200	634,410	3,614,710	646,100	640,520	620,780	566,050	1,507,760	682,020	4,663,230	8,277,940
延べ勤務時間数	3,079.1	3,337.4	3,157.0	3,120.1	3,021.7	3,148.8	18,864.1	3,251.3	3,152.9	3,124.2	2,771.6	2,874.1	3,349.7	18,523.8	37,388
平均工賃	189	188	190	191	191	201	192	199	203	199	204	525	204	252	221
(円)	14,172	15,309	14,592	14,515	14,102	15,473	14,694	15,759	15,622	15,141	13,806	36,775	16,635	18,956	16,825

(1) 平均工賃月額 16,825円 (前年度 15,968円)

(2) 平均工賃時給 221円 (前年度 211円)

今年度新たに、F社、A社の施設外就労が増えたことやG社からの大型案件もあり、利用者工賃を大幅に向上させることができた。

5. 日中活動

(1) 奉仕活動

今年度新型コロナウイルスの影響で、イベント等も全て中止となり、昨年まで継

続してきた認知症カフェの集会スペースの貸出もできなかった。また認知症当事者会との交流機会も全て中止となっている。

- ① 施設外就労先の敷地内の草取りを行い、環境美化に協力した。
- ② Café de solにて、絵画教室の個展を企画していたが新型コロナウイルスの影響により中止とした。

(2) 廃品回収

- ① 段ボール、古新聞の回収を行い、毎週火曜日に松田センターに届けた。
- ② 各家庭から持ち寄ったアルミ缶は随時、中沼ケアセンターに届けた。

(3) 健康管理

身体機能の低下が著しい利用者が増え、日々のバイタルチェックは必須の状態となっている。また、食事形態の変更を余儀なくされる利用者も増加傾向となっている。

- ① 個々の利用者健康診断結果をもとに、血圧、体重、サチュレーションの測定を導入した。

血圧測定者：4名、体重測定者：2名、サチュレーション測定者：3名

- ② てんかん発作を記録し、通院時の情報提供を行った。
- ③ 朝の作業開始前にはラジオ体操を作業室ごとに実施し健康の維持に努めた。
- ④ 給食業者と連携し、刻み食、ミキサー食、おかゆなど利用者の嚥下機能の変化に合わせて調整を行った。

(4) フリープログラム

- ① 太極拳プログラムは新型コロナウイルスの影響により中止とした。
- ② 希望者に対してセラピー犬と触れ合う時間を設けた。
- ③ 昼休みの過ごし方を提案し、カラオケ以外にもカードゲーム（トランプ、UNO）などで楽しむグループが増えた。

(5) 地域交流

新型コロナウイルスの影響により地域交流の機会を設けることができなかった。

(6) 地域における公益的な取組

新型コロナウイルスの影響により地域における公益的な取組ができなかった。

- ① 年11回予定していた認知症カフェ「ほっとカフェ」は、新型コロナウイルスの影響により全て中止となった。
- ② 毎年恒例で行われていた絵画展は新型コロナウイルスの影響により開催できなかった。

6. 就労活動

(1) プラスチック製品の検査・計量・箱詰め・伝票作成・束ね

新型コロナウイルスの影響は最小限に留めることができ、利用者作業に大きな影

響はなかった。員数ミスによる出荷が発生し、D社よりクレームを受けた。計量方法の改善に取り組み、音とランプで確認できる装置を開発し、利用者が安心して作業に取り組める環境整備を行った。令和3年度より全事業所の計量方法を統一する。

(2) 清掃活動

清掃作業を得意とする利用者を3名増やすことができた。清掃メンバーが増えたことで、利用者の負担も軽減でき、工賃向上にもつながっている。トイレ清掃技術の向上により、学園トイレの清潔保持につながっている。

(3) 施設外就労

新規にF社での構内除草作業、A社でのbox作業が加わり、施設外就労に参加する利用者も11名⇒21名に増えた。工賃向上につながると同時に、施設外に出ることが施設内の利用者の目標になっている。

- ① 令和2年度も引き続き、りんどう会館清掃を月・水・金の週3回継続している。新たに3名がりんどう会館清掃のメンバーに加えることができています。
- ② H社の育樹作業を今年度も継続した。月に2回の作業要請から4回に増え工賃向上にもつながっている。新たに2名が作業に加わり、回数の増加に対応できた。
- ③ 南足柄市から依頼され医療証、がん検診チケットの封入作業を行っている。
- ④ F社の構内除草作業（窓拭き、ゴミ拾い含む）を請け負い、週に2回取り組んでいる。大企業の中で作業を行うことで緊張感もあり、身だしなみや言葉づかいなどマナーの向上にもつながっている。
- ⑤ 8月より、A社にて施設外就労に取り組んだ。松田センターと共同で毎日8名～9名が参加している。企業で求められる厳しさを肌で感じ、言葉づかいや相手への思いやり、納期に間に合わせなければいけない責任感を養うことができた。

(4) 飲食店

新型コロナウイルスの影響により、接客を伴う営業を行うことができなかった。しかしながらテイクアウト弁当事業の充実の特化したことで、前年度より売上が上がった。また、利用者支援では、弁当の仕込みから盛り付けまで幅広く作業を提供することができた。

(5) 受注作業

① 社会就労センター協議会

神奈川県共同受注窓口より、ヘルプマーク作業30,000個の製作を請け負い、県西地域の4事業所合同で取り組んだ。今まで県西地域での実績がなかったため、次年度以降の受注実績につなげることができた。

② I社

落花生袋詰め作業を受注し、1,000袋/週を出荷している。専用の計量機を第一

作業室に設置し、4名の利用者が計量、シーラー、検品、梱包作業と流れ作業で行った。また、食品シール貼り等の軽作業は2階作業室にて行い、事業所内で連携しながら短納期の受注に対応した。

③ A社

定期的に内職作業を受注し、松田センターとも協力し、大量受注に対応できた。

7. 余暇活動

新型コロナウイルス感染予防のため、令和2年度予定されていた行事がすべて中止となった。他施設との親睦機会となる「みんなのつどい」、「県西地区文化事業」も中止となり、利用者余暇のサービス提供の機会が著しく減ってしまった。

(1) 納涼大会

7月11日(土)を予定していたが、新型コロナウイルス感染予防のため、事業所内レクリエーションに変更となった。射的、カキ氷、綿菓子、ヨーヨー釣りを楽しんだ。

(2) コスモス運動会

9月11日(金)を予定していたが、新型コロナウイルス感染予防のため、中止となり通常作業を行った。

(3) 学園祭

10月10日(土)に予定していたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止となり、事業所内レクリエーションにて、看板づくりやオリジナルコースター作り、射的、ヨーヨー釣り、フランクフルト模擬店を楽しんだ。

(4) バス研修旅行

11月20日(金)に予定していたが、新型コロナウイルス感染予防のため中止となり、通常作業を行った。

(5) クリスマス会

12月14日(金)に開催した。利用者カラオケ、出し物、職員からのクリスマスコンサート等の企画で楽しんだ。また、コロナ禍でマスクを外すことが少なくなってしまったため、「マスクの下の笑顔」というテーマで、マスクを外したとびっきりの笑顔を利用者全員チェキで撮影し、その場で思い思いのデコレーションした写真を2階廊下に飾った。

(6) レクリエーション

2月19日(金)を予定していたが、新型コロナウイルス感染予防のため、外出活動は中止し、事業所内レクリエーションにて、カラオケ大会、カードゲーム大会、映画鑑賞会を行った。

(7) クラブ活動

新型コロナウイルス感染予防のため、中沼ケアセンターとの合同クラブ活動は行わず、中沼ジョブセンター内で音楽クラブ、卓球クラブ、ドライブクラブ、映画クラブに分かれて毎月行った。

8. 職員研修

- ① 6月12日（金）正職員のみ的小規模で行った。就労支援について1つの事例を深く掘り下げ、環境設定の重要性、他機関連携、生育歴等の過去の情報から得られる課題解決へのヒント、就労準備支援の在り方、一般就労のタイミングなど話し合い、支援スキルの向上を図った。
- ② 2月11日（木）正職員のみ的小規模で研修を行った。「今、障害者施設に求められる支援」をテーマに、意思決定支援の考え方を共有し個別支援計画に反映できるよう学びを深めた。

9. 地域活動

開催日	行事名	場所
毎月第4木曜日（8月除く）	ほっとカフェ（中止）	カフェ・デ・ソル
5月	みんなのつどい（中止）	小田原アリーナ
7月	納涼大会（中止）	中沼ケアセンター中庭
10月	学園祭（中止）	中沼ケアセンター中庭
12月	県西地区文化事業（中止）	川東タウンセンターマロニエ

10. 支援他

- (1) 個別支援計画面談を10月、3月に実施した。
- (2) 中沼ジョブセンター会議を毎月1回開催した。
- (3) 工賃会議を8月、1月に実施した。
- (4) 利用者健診
 - ・健康診断を年1回実施した。
 - ・内科健診を年2回実施した。
 - ・歯科検診を年1回実施した。
 - ・インフルエンザ予防接種を11月に実施した。

4. コスモス学園中沼ジョブセンター

1. 事業内容 生産事業部 就労支援事業

2. 目標達成手段・具体的方策

(1) 令和元年度比 100%の売上を目指す

通期で前年度比 79% (目標 100%) の売上であった。

年度当初より売上が前年度同月を下まわる傾向が見られた。前期より確定していたB社とC社からの主力受注品返却による売上低下分を新規受注により補う計画であったが、新型コロナウイルス感染拡大の影響による自動車部品関連の受注低下も重なり結果として売上は目標を2割程度下まわった。

2月以降は、医療系製品の受注増加等により売上は前年度比を上まわり回復傾向がみられた。

① 既存顧客からの受注製品増加

ア D社より受注した、自動車向け新規格バッテリー部品の量産を開始した。

当初見込みより受注が多く、売上は前年度を上まわることができた。

イ B社からの受注は、年度当初量産開始予定であった製品の受注が新型コロナウイルス感染拡大の影響によりキャンセルと自動車部品関連の大幅な受注低下により前年度を大きく下まわったが、期末は医療関連部品の受注が増加し回復傾向がみられた。

ウ J社からの受注は、K社向け製品の受注が止まったが前年度の新規受注品が好調であり売上低下を補うことができた。また3月に新規最終顧客の紹介があり受注に向け活動した。

エ L社よりM社向け製品を複数受注することができた。

② 営業力の強化・新規顧客開拓

卵殻を混練したプラスチックを開発したN社から新規受注を受けた。

③ 成形機稼働の効率化による生産能力向上

前年度から成形品の2次加工を自動化する取組を続けた結果、無人稼働が可能な製品を増やすことができ生産性が向上した。

④ プラスチック成形品の製造組立の受注・シームレスな営業活動

現有している生産技術を活用して、プラスチック成形品以外の受注を獲得し利用者に作業提供することができた。

⑤ 製品見積の精度向上、作業工程の見直しにより利益率を向上させる

新規見積では、過去の歩留まり実績、注文数の変動による価格変化をデータ化し精度を向上させた。

(2) 組織体制の強化を図る

① 将来プラスチック成形工場全体の管理ができる人材の雇用・育成をする

7月に1名を採用したが、11月に退職したため計画を進めることはできなかった。

- ② プラスチック分科会で将来に渡った経営の持続的安定について検討する
プラスチック分科会を定期的に実施し、主に経営課題、設備投資計画について打ち合わせを行った。
- ③ プラスチック成形付帯作業の効率化を計る
 - ア 自動取出機を活用し2次加工の自動化を進めた。
 - イ 人手が必要な作業（外観検査・梱包）を利用者に作業提供した。
- ④ 生産活動のデータ管理（稼働率・良品率等）を行う
新規受注見積・生産・在庫・出荷管理ソフトの稼働を行った。
- ⑤ 職員教育の実施
 - ア 職員のプラスチック成形技能士実技試験対策（5月～6月）
該当者の採用がなかったので実施しなかった。
 - イ 品質研修を毎朝のミーティングを利用し随時実施した。

（3）適切な設備投資・修繕を行なう。

- ① 設備投資計画
 - ア 成形機付帯の自動取出機2台を老朽化のため6月に更新した結果、段取り時間の短縮と稼働時間の短縮、2次加工の自動化で生産効率を高めることができた。
 - イ 成形品の画像検査装置の購入は、売上の低下傾向が顕著化したことにより見合わせた。
- ② 修繕が必要な設備
エアコンプレッサー、フォークリフトの定期点検を実施した。

（4）品質管理体制の強化

- ① ISO9001の効果的な運用を進める
 - ア 内部監査員の監査スキルの向上は、前期は実施したが、後期は実施しなかった。
 - イ ISO推進委員会議は定期的に実施した。
 - ウ 内部監査技術研修は実施しなかった。
 - エ 1月に外部機関によるISO9001審査が行われた。品質マニュアルの修正をアドバイスされる程度で是正事項はなく問題なく継続できた。
- ② 部署職員への品質研修を実施する。
製品ごとの手順書を充実させた。
- ③ 成形品の測定データを分析し、安定生産に役立てる。
D社向け製品を中心に測定記録をデータベース化させた。

【特記事項】

12月にD社より、トッテで異品混入・納入数量違いの品質クレームを発生させた。計量方法の改善に取り組み、音とランプで確認できる装置を開発し、再発防止対策をとった。

(5) 資格・免許の取得

該当者の採用がなかったので実施せず。

(6) 令和2年度重点取組事項

① 国内製造業不況の対策

同業他社は新型コロナウイルス感染拡大の影響も加わり、稼働時間短縮・従業員の一時帰休を実施していたが生産事業部はこのような状態に陥ることなく事業を継続することができた。受注低下は勤務時間の短縮をして対応した。

(17:30 勤務終了で契約した従業員は、17:00 勤務終了とした。)

② C社からの受注低下対策として新たな受注獲得を目指す。

ア 年度当初より既存客先に対して積極的に受注を呼びかけたところ、1月頃より新規案件の見積依頼・受注が入り始めた。

イ プラスチック成形品以外の受注（落花生袋詰め作業、アルコール充填作業）を獲得した。

5. コスモス学園中沼ケアセンター

1. 事業内容 生活介護

2. 利用者在籍状況 定員27名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	16	192
女	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	228
計	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	35	420
退所													
入所													

3. 平均利用率・累計利用人数

(1) 令和元年度 112.6%、7,937名

(2) 令和2年度 115.6%、8,210名

4. 地域行事

開催日	行事名	場所
11月14日～15日	日向公民館祭り	日向公民館

※ 新型コロナウイルスの影響でその他行事は中止

5. 日中活動

(1) スノーブレン

落ち着いた雰囲気の中での活動なので、職員と話をした方やゆっくりと過ごしたい方が好んで参加している。利用者が横になって休む際には、間をあげ密にならないように対応した。

(2) 運動・ストレッチ

運動の流れは利用者にも浸透しており、音楽に合わせて体を動かす機会を提供できている。また、運動後はクールダウンとしてストレッチも行っている。新しい音楽を取り入れ、これまでとは違う体の動かし方ができるようにした。

(3) 音楽・カラオケ

選曲できる方については、好きな曲を選んで歌うことでリフレッシュしている様子がうかがえる。選曲が難しい方については、職員が利用者の好きな曲を選曲することで表情良く過ごせている。

(4) DVD鑑賞

ゆっくりと過ごす日課として取り入れており、利用者は集中して鑑賞してい

る。また、リクエストを聞くことで、見たいDVDを見られるようにしている。

(5) 外出活動

公園までドライブし、そこで散歩をすることで歩行時間の確保、気分転換を図っている。新型コロナウイルスの影響で、あまり人が集まらない公園に行っていたため、行ける場所の幅が狭まってしまった。

(6) 音楽療法

新型コロナウイルスの影響で、今年度は一度も行わなかった。

(7) アニマルセラピー

セラピー犬が来るのを楽しみにしている利用者が多く、触れ合っている時の表情も良い。例年は中沼ジョブセンター、松田センターと合同で行っていたが、今年度は密を避けるため、合同で行わず、中沼ケアセンターだけで3回行った。

(8) 伝統芸能

茶道では、お茶のたて方に慣れてきた様子で職員の方のお茶をたててくれる方も出てきている。華道では、どの花を生けたいか利用者本人が選べる場面が増えており、楽しんで行っている。新型コロナウイルスの影響で、今年度は3回の実施となった。

(9) アロマセラピー

利用者がリラックスできる新しい活動として取り入れ、穏やかに参加されていた。新型コロナウイルスの影響で、今年度は3回の実施となった。

(10) 地域交流

日向公民館祭りに出展したのみで、コスモス学園の認知度を上げる活動がほぼできなかった。

(11) 全般

余暇活動において、新たなボランティア探しを続けていくことで、日課の拡充を図っていく。また、その中で利用者が何をやりたいのか選べるような場面を増やす。

6. 就労活動

(1) 制作活動

季節ごとにその時季に応じた制作を行い、事業所内にそれを飾ることで季節感を出すことにもつながった。今年度は自主生産品の販売機会が限られてしまったため、制作を行う時間が多かった。

(2) リサイクル作業

アルミ缶回収については地域の方の協力もあり、継続して行えている。また、アルミ缶の分別についても利用者が携わる機会が増えた。

7. 余暇活動

(1) バス旅行

今年度は新型コロナウイルスの影響で中止となった。

(2) クラブ活動

これまでは中沼ジョブセンターと合同で行っていたが、密を避けるため中沼ケアセンター単独で行った。調理クラブが今年度はできず、利用者の選択の幅が狭まってしまった。

8. 職員研修

新型コロナウイルスの影響があり、外部研修は行えなかった。事業所内部の研修では、職員間のコミュニケーション方法の改善や虐待防止の取組、利用者支援についての考え方の共有などに取り組んだ。

9. 事業所運営

支援サービスの質については、各グループでの話し合いの時間を多く取るようにし、利用者の状態についての情報共有をより深くできるようにした。経費削減については、職員の残業時間を減らすために日中の時間を更に有効に活用できるよう取り組んでいる。

10. 支援他

職員間の情報共有がスムーズになったことが、個々の利用者に対する支援の底上げにつながっている。余暇活動について、新型コロナウイルスの影響もあり外部講師を招いての活動や、外食など行うことが今年度はほぼできなかったため、終息後は新しい余暇活動が提供できるよう準備をする。

6. 居宅介護事業所それいゆ

1. 事業内容 居宅介護・重度訪問介護

2. それいゆ利用時間・累計利用人数

(1) 令和元年度 5, 965.0時間、6, 313名

(2) 令和2年度 6, 113.5時間、6, 693名

3. 支援内容別利用時間

(1) 令和元年度

① 身体 5, 506.5時間

② 家事 416.5時間

③ 移動 42.0時間

総利用時間数 5, 965.0時間

(2) 令和2年度

① 身体 5, 791.0時間

② 家事 283.5時間

③ 移動 20.0時間

④ 通院 19.0時間

総利用時間数 6, 113.5時間

今年度の総利用時間数は、昨年度より148.5時間の増であった。前年度同様、休日のコスモスホーム勤務者をヘルパー資格所持者対応にしたことや、通院介助の利用を開始したことで時間増につながった。

4. ヘルパー業務

(1) 日常生活支援

新型コロナウイルス蔓延の中、感染防止策を皆で考えて対応にあたった。次年度も利用者の特性を踏まえた支援の向上ができるよう、感染防止対策をしっかりとって取り組んでいく。

(2) 適切なサービス提供

前年度同様、状況に応じて相談支援事業所と連携を図り、情報共有に努めた。

(3) 人権擁護

法人内研修にて「ヘルパーとして」というテーマで研修を実施した。何かをする前に自分が相手の立場になって考えてみる事を話し合った。今後の研修でも人権について実施していく。

(4) 地域連携

- ① 新型コロナウイルスの影響から、担当者会議ができない状況であったが電話等で相談支援事業所と情報交換を行い連携に努めた。
- ② 県西地区あんしんヘルパーネット会議は新型コロナウイルスの影響もあり開催されなかった。

(5) 守秘義務の徹底

個人情報ヘルパー同士で共有することが多いことから、情報漏洩がないよう随時ミーティングや個別にて周知し徹底を図った。

5. 職員研修

- (1) 年2回法人内職員研修は新型コロナウイルスの影響のため、今年度は正職員のみでの研修を行っている。1回目はパート職員にも周知できたが、2回目の研修内容は資料のみとなってしまった。OJTは少人数に分け実施した。
- (2) 新型コロナウイルス影響のため研修等の参加はできなかった。収束後は個々のスキルアップのため積極的に外部研修へ参加していく。
- (3) 定例会でわからないことを話し合い実践に活かしていく。

6. 事業所運営

- (1) 今年度も現状の職員数では男性利用者の対応が困難な場面があった。法人内各事業所との連携により対応することができ、支援、協力体制の強化につながられた。
- (2) 虐待防止チェックリストを活用し、話しにくい内容でも個々にて話をし、支援強化を図った。
- (3) 在宅介護サービスは、契約終了の方が1名、新規の方が3名となっており次年度も拡大できるように体制を整える。
- (4) 今年度も基本理念、基本指針はミーティング等にて周知徹底を図った。

7. コスモス学園松田センター

1. 事業内容 生活介護

2. 利用者在籍状況 定員18名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	216
女	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
計	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	25	300
退所													
入所	1												

3. 平均利用率・累計利用人数

(1) 令和元年度 110.1% 5,194名

(2) 令和2年度 109.7% 5,194名

4. 地域行事

新型コロナウイルスの影響で地域行事はすべて中止のため参加はなかった。

5. 日中活動

(1) スヌーズレン

手作り灯籠やお香、オルゴールサウンドを使用し、リラックスした環境を設定できている。ニーズがある利用者が多いため、時間を縮小し2つに分かれて取り組めた。

(2) 運動

利用者個々の状況に合わせてプログラムを設定し、ストレッチや時間を長めに設定したロング歩行、YouTubeを見ながらの体操など楽しく継続して取り組めた。

(3) 音楽ゲーム・カラオケ

カラオケは昼休みに行い、参加した利用者は曲に合わせて体を動かしたり、聞いたり楽しく参加できていた。利用者が選んだ曲に合わせて手作り楽器を演奏するなど、様々な利用者が楽しめた。

(4) DVD鑑賞

利用者のニーズ別にDVDを上映し、3か所に分かれて行った。自己選択をすることで、みんなで楽しくDVD鑑賞できていた。

(5) 外出活動

車の台数を増やして少人数で取り組んだ。複数に分かれて取り組むことで、利用者個々にコミュニケーションを多く取ることができた。

(6) 音楽療法

新型コロナウイルスの影響で今年度は実施しなかった。

(7) 奉仕活動

月2回実施している。松田センター周辺の公園やパークゴルフ場、川沿いで美化活動(ごみ拾い)を行った。地域の方から声をかけられることも多くなった。

(8) 足湯

11月～3月に実施している。入浴剤を入れ、足をマッサージすることで利用者全員がリラックスして参加できていた。足元の血行促進にもつながった。

(9) 地域ボランティアとの交流

新型コロナウイルスの感染予防で時間を縮小し、ダンベル体操(運動)、クレッシエンド(演奏)の方々が定期的に来所された。利用者のニーズに合わせたプログラム設定ができた。

(10) 法人内他事業所との交流

新型コロナウイルスの影響で今年度は実施しなかった。

(11) 日中活動全般

月1回の医療ケア会議は管理者、サービス管理責任者、看護師等が参加し情報共有ができた。看護師が不足しているため医療対応利用者の受入に支障をきたす場面もあった。

6. 就労活動

(1) 制作活動

利用者個々が折り紙や色鉛筆の色を選んで作成できていた。少人数で作品を作成することで数多くの作品を作り、利用者が協力して取り組む場面も多かった。

(2) コピー機部品の分解(リサイクル)・検査

作業工程を増やし、複数の利用者が作業を行うことができていた。全体的に集中できる時間も長くなった。

(3) 重機部品の組付け・検査

組付け作業の希望者が多く、様々な利用者が取り組んでいた。細かい作業で指先を使う工程が多いが、集中して行っていた。

(4) その他

就労継続支援B型と連携して新規作業の内職作業(コア材詰め)をたくさん利用者が集中して取り組めた。

コスモス学園松田センター

1. 事業内容 就労継続支援 B 型

2. 利用者在籍状況 定員 22 名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	20	240
女	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	96
計	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	29	336
退所						1							
入所													

3. 平均利用率・累計利用人数

(1) 令和元年度 113.7%、6,556名

(2) 令和2年度 109.5%、6,299名

4. 工賃実績

(1) 平均工賃月額 14,745円 (前年度 14,809円)

(2) 平均工賃時給 196円 (前年度 199円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
対象	27	27	27	27	27	27	27	27	26	25	26	26	319
総額	343770	359760	355610	339270	313786	359190	366980	367970	345350	306050	306810	939010	4,703,556
日数	507	537	540	542	486	550	576	538	526	454	469	574	6,299
時間	1932	2126	2130	2048	1890	2073	2163	2118	1772	1749	1754	2223	23,978

5. 日中活動

(1) 奉仕活動 (公益活動)

月 2 回、川沿いや新松田駅付近で美化活動 (ごみ拾い) を行い、地域の方との交流も定着し、声をかけてもらうことが多かった。

(2) 廃品回収 (公益活動)

古紙、段ボール、アルミ缶、スチール缶等を法人内事業所、保護者に呼びかけて回収を行った。月 1 回、松田町指定の再生資源回収業者が回収した。

(3) 歩行

健康診断の結果や筋力維持の目的がある利用者は個別に時間を設定して行った。作業の合間に行うことで気分転換もできていた。

(4) フリープログラム

作業終了後にストレッチの時間を設定し、気分転換をすることができていた。制

作活動では、さがみ信用金庫で行っている街角アートギャラリーに作品展示を行った。利用者個々の個性が多く見られる作品が作成できた。

6. 就労活動

(1) コピー機部品の分解(リサイクル)・検査

〇社の受注が減り、作業量も少なくなっているが、納期が延びたことで、作業に携わる利用者が増えた。

(2) プラスチック製品の検査・計量

中沼ジョブセンターと連携を取り、様々な作業に取り組むことができた。計量ミスがあり、中沼ジョブセンターと連携し、作業方法の見直しを行った。

(3) 重機部品の組付け・検査

P社の受注は減った。細かい製品が多いため、利用者が手先を使った作業を中心に取り組むことができた。

(4) クリーニングされたタオルの選別、折り込み作業

毎日、複数の利用者が継続して取り組めた。繰り返し折り込み作業をすることで、自宅でも洗濯物をたためるようになった利用者もいる。

(5) その他受注作業

Q社からの受注は増えている。月平均8万個程注文があるが、納期に間に合うように取り組めた。

(6) 清掃活動

生活介護棟、就労継続支援B型棟の2か所の清掃を行った。トイレや廊下、作業室を掃除機、モップで丁寧に行った。今年度は新型コロナウイルス感染予防で手すりや手が触れる場所のアルコール消毒も徹底して行えた。

(7) 施設外就労

R社の仕分け作業を継続して行った。現地従業員と連携を取り、機械を使った入力なども任せられるようになった。

ブルーベリー摘み取り作業は新型コロナウイルス影響で今年度は中止となった。

S社の草刈り作業は継続して実施した。

8月から施設外就労でA社での作業が開始し、内職作業中心に常時5名の利用者が取り組んだ。

(8) その他

今年度、松田町のハーブガーデンに自主生産品のビーズや縫物製品を置き、販売をした。新型コロナウイルスの影響でバザーはなかったが多少の売上はあった。

7. 余暇活動(共通)

(1) 生活介護レクリエーション

2月19日(金)午前は映画鑑賞、午後は宝探しゲームを行った。4グループに分かれて密にならないように取り組めた。

(2) 就労継続支援B型レクリエーション

2月19日(金)午前は4か所に分かれて映画鑑賞、午後はボードゲームや宝探しを行った。

(3) 生活介護バス旅行

新型コロナウイルスの影響で中止となった。

(4) 就労継続支援B型バス研修旅行

新型コロナウイルスの影響で中止となった。

(5) クリスマス会

12月18日(金)新型コロナウイルスの影響で就労継続支援B型、生活介護に分かれて行った。職員出し物や利用者発表など少人数で楽しく取り組めた。

(6) クラブ活動

ドライブクラブ、音楽クラブ、運動クラブ、クラフトクラブの4つのクラブに分かれて月1回土曜日の午後に余暇を楽しんだ。

8. 職員研修 (共通)

法人内職員研修は、新型コロナウイルスの影響で正職員のみで行った。6月12日(金)に「危険予知トレーニング」、2月11日(木)に「ストレスを学ぶ」を行った。

利用者の危険予知に対する理解が深まり、利用者支援の向上につなげていく。ストレスについては個別支援計画の作成や日々の支援に重要であることを再認識した。

9. 事業所運営 (共通)

権利擁護については、虐待防止チェックリストを活用して、日々の支援の中で自己評価をした。避難訓練については年2回実施し、防災に関する意識付けを図った。施設内の自主防災点検を月1回行い、評価を取った。

10. 支援他 (共通)

(1) 個別支援計画面談を10月、3月に実施した。※電話面談を行った。

(2) 松田センター・あすなろ合同会議を毎月1回実施した。

(3) 工賃会議を7月、12月に実施した。

(4) 利用者健診

・健康診断を年1回実施した。

・内科検診を年2回実施した。

・歯科検診を年1回実施した。

・インフルエンザ予防接種を11月に実施した。

8. 相談支援事業所あすなろ

1. 事業内容 特定相談支援・指定障害児相談支援

2. 市町村別登録者数

市 町 村	人 数	市 町 村	人 数
小田原市	27	山北町	6
南足柄市	43	箱根町	1
大井町	19 (2)	秦野市	17
開成町	10 (1)	藤沢市	2
中井町	1	横須賀市	1
松田町	33 (8)		
		合 計	160 (11)

※ () は障害児相談利用者数。

3. 活動内容

(1) サービス等利用計画の作成

① 相談者の個性や環境に適した利用計画を立てる

相談者の取り巻く環境の変化に応じてサービスの追加、支給量の調整を図った。また、利用開始が円滑に進むよう事業所紹介、見学同行を実施した。

② 相談者の意思決定が適切に行われるよう情報提供、体験機会を作り、意思を尊重した利用計画を立てる

権利擁護の観点に基づいて、本人の言葉や思いを汲み取った支援計画を作成した。必要に応じて意思確認をする場を設け、支援関係者と情報共有を図った。

重度心身障害者の方の住まい探しについて継続的な支援を行った結果、アパートでの一人暮らしを始めることができた。関係機関との調整や協力の元で本人の意思尊重を図り、支援体制の構築ができた。

③ 相談者の強みに着目し、相談者の力が生かされるよう利用計画を立てる

本人の興味や関心などから活動参加の意欲を引き出し、本来持っている能力を発揮できるよう、担当者会議の実施、事業所との連携を図った。

(2) モニタリング

① 厚生労働省の定める期間ごとの他、必要に応じて行う

平成30年度報酬改定後のモニタリング期間に対応した。相談者の状況に応じた面談や電話対応での聞き取りを行った。

新型コロナウイルスの流行に伴い、感染症対策を意識した面談方法の確立を検討して対応を進めた。

- ② 本人、家庭、事業所等の連絡を継続的に行う
通所事業所、訪問系サービス事業所等と連携を取り、相談者の状況確認をし、支援機関や家族、本人に継続的な働きかけを行った。
- ③ 必要に応じて計画変更、もしくは福祉サービス事業所や関係機関との連絡調整に努める
本人、家族、支援提供事業所からの情報提供、サービス調整、会議設定を円滑に実施することができた。

(3) 地域における社会資源の活用

- ① 行政機関、福祉事業所、医療機関、他の相談支援事業所との連携を深める
新型コロナウイルスの流行もあり、直接対面で会う研修、会議が少なくなった。対策としてZoomを活用した研修に対応できるよう環境整備を進めた。
- ② 相談支援事業のネットワークに参加
県西障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター、小田原市基幹相談支援センターなどの相談支援に関わる研修に参加した。個別ケースの計画相談に関する相談を小田原市基幹相談支援センターに依頼してアドバイスを頂いた。
- ③ 地域生活支援拠点事業等の開始を見据え、スムーズな連携がとれるように必要な会議、打ち合わせに参加し、情報収集や関係を築いていく
相談支援連絡会等の地域の会議への出席を通じて、関係機関担当者から地域生活支援拠点事業等の動向について情報収集を行った。

4. 職員研修

- (1) 各種団体が開催する相談支援関係の研修に参加する
県西障害保健福祉圏域地域生活ナビゲーションセンター、小田原市基幹相談支援センターなどの相談支援に関わる研修に参加し、相談支援の質の向上を図った。また、加算取得に向けて専門コース別研修「地域移行・定着支援」、強度行動障害支援者養成研修「実践研修」に参加した。
- (2) 法人内の研修に積極的に参加する
松田センターの「危険予知トレーニングについて」「ストレングスを学ぶ」の研修に参加した。
- (3) リーダーシップ研修に参加する(リーダー層対象、法人内、各種団体)
新型コロナウイルスの流行により、研修開催の機会が少なくなり、参加は減っている。神奈川県主催の強度行動障害支援者養成研修「実践研修」は昨年度中止になったが、今年度は受講できた。

5. 事業所運営

- (1) 研修等を通じて計画作成におけるプロセス等の質の向上・充実に努める
かながわ障がいケアマネジメント従事者ネットワーク主催の専門コースに参加し、相談支援の質の充実・向上を図った。
- (2) 法令の順守（理解）を徹底する。
支給決定のプロセスや受給要件などの確認を行い、適正なサービス受給を受けられるよう行政、関係機関と確認、協議を行った。
- (3) 日程調整、書類作成等のプロセスを見直しサービスの効率化を進める
事業所内での定期的な会議を行い、進捗確認、日程調整を実施し、効率化が図れた。兼務者のスケジュール調整を綿密に行い、面談調整、書類作成時間など時間配分を決めて対応できる内容の充実に努めた。
- (4) 経費削減を徹底する。
面談、書類提出、法人本部への事務処理など効率よく業務遂行ができるようにした。

6. その他

- (1) あすなろ登録者の計画相談、モニタリング面談を随時実施した。
- (2) 松田センター・あすなろでの毎朝の打ち合わせを行い、連携強化を進めた。
- (3) あすなろ部署会議を毎月1回実施した。

9. コスモスホーム

1. 事業内容 共同生活援助(介護サービス包括型)
短期入所(空床利用型)

2. 利用者在籍状況 定員30名

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
ひだまり	116	144	142	151	135	141	145	140	148	116	130	143	1,651
やまびこ	325	334	319	337	337	326	339	322	341	319	305	340	3,944
こもれび	271	286	290	296	297	292	301	284	297	277	270	308	3,469
合計	712	764	751	784	769	759	785	746	786	712	705	791	9,064
退居	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
入居	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

3. 平均利用率

- (1) 令和元年度 83.6%
(2) 令和2年度 82.8%

4. 地域行事

開催日	行事名	場所
6月14日	市・美化デー	中沼公民館(新型コロナウイルスのため中止)
9月6日	市・中沼自主防災訓練	中沼公民館(新型コロナウイルスのため中止)
11月8日	中沼自治会文化祭	中沼公民館(新型コロナウイルスのため中止)
11月15日	日向公民館祭り	日向公民館(新型コロナウイルスのため中止)
3月14日	ワクワクのりのりコンサート	(新型コロナウイルスのため)中止

5. 支援内容

(1) 障害者の地域生活・地域移行の「受け皿」としての役割

新型コロナウイルスに左右される中、利用者の状態に応じ、自主性を保ち、一人ひとりの「ふつうに暮らす」を支援できるよう行政、医療、専門機関、日中事業所等と連絡調整を行うとともに地域移行の「受け皿」として法人内利用者2名と短期契約を結んでいる。コスモスホーム会議、クルー会議、また現場において職員への技術指導および助言を行い、利用者の人格に十分に配慮しながら統一した支援を提供した。

(2) 日常生活能力の維持・向上

利用者の障害特性を踏まえ、能力に応じ自立した日常生活を営むことができるよ

う「各自のできることを増やしていこう。」を継続目標にやまびこ、こもればは更に食器洗い、洗濯、布団干し、窓拭き等々、個々に進んでできるようになってきている。月のメンバー会議は新型コロナウイルスの影響でメンバーが集まることは控えたが、毎月書面にてコロナ禍における暮らし方を改めて伝えている。その他、ひだまりメンバーは昼薬、資料や段ボールを日中事業所に届ける係などは継続して行い、個々のニーズに合わせてながら、役に立つ喜びを共有している。

服薬管理対象者 18 名（令和元年度 18 名・平成 30 年度 15 名）、塗布薬および季節等の配薬を含めると 22 名（令和元年度 28 名・平成 30 年度 21 名）であった。金銭管理対象者 19 名（令和元年度 18 名・平成 30 年度 17 名）については利用者預り金規程に則り不備のないよう実施した。生活相談においては例年同様に日中事業所、ホーム内の人間関係について多く寄せられた。自分で解決できるようアドバイスしつつ、溜め込まずに少しずつ話ができるようになったことを評価したい。その他、間食等管理対象者 2 名（令和元年度 5 名・平成 30 年度 6 名）の支援を行うことで、体調面、メンタル面の安定と作業意欲向上につながっている。

（3）本人の望むサービスの提供

本人の意向を尊重し、モニタリングの実施でニーズを引き出し、支援計画の作成と見直しを行い心身の状況、その環境に応じて自立に向けた支援が提供できるよう取り組んだ。

（4）日中支援

心身の不良等により予定した日中活動サービスを利用できなくなった利用者や就労先欠勤の利用者に対する昼食提供や様子観察、通院同行等、関係機関への連絡調整は、居宅介護事業所それいゆとの連携により充分な対応ができた。

（5）通院同行

7 名の定期通院 66 件と 10 名の緊急・臨時通院 45 件（令和元年度 7 名の定期通院 57 件と 8 名の緊急・臨時通院 28 件）を実施し、利用者の健康増進、維持に努めた。1 名の利用者が複数の定期通院や緊急通院の頻度が増えているため、定期通院については居宅介護事業所それいゆの通院等介助を利用したり、日中事業所の応援により行うことができた。臨時通院は今後もさらに増えることが想定されるため、対応職員の確保が必要となる。

（6）地域活動

新型コロナウイルスの影響により、地域行事についてはすべて中止となったが、定期的に自治会などの関係機関と連絡をとり、次年度以降の活動につながるようにしている。

（7）余暇活動

新型コロナウイルスの影響により、年度の前半の活動は控えている。後半は外出活動を控え、密を避けながら、季節に応じた製作活動や運動プログラムなど、

少人数で行える活動を主として実施した。前年度参加した「県西地区グループホーム交流会」は新型コロナウイルスの影響により中止となった。外部行事についてもすべて中止となり(みんなのつどい、県西地区障害者文化事業、ワクワクのりのりコンサート)、ホーム行事の「バーベキュー大会」「忘年会」に関しては密を避ける方法に切り替えて実施した。

6. 職員研修

新型コロナウイルスの影響により研修が大幅に減少した中、オンラインなども活用し、利用者支援の質的向上を目的に令和2年度は下記の研修に参加した。

6月12日、28日	法人内事業所職員研修 「あおぞら宣言について再確認」「虐待防止・権利擁護について」
11月13日	第1回サビ児管連絡会(ZOOM)
11月~2月	令和2年度「神奈川県虐待防止・権利擁護研修」(動画視聴・レポート提出)
2月27日	法人内事業所職員研修「権利擁護について」
3月23日	サービス管理責任者更新研修

7. 事業所運営

4月当初に発令された新型コロナウイルスに伴う緊急事態宣言を受けて、生活全般の見直しが必要となった。3密を避ける対策として、対面で食べることを避ける。必要に応じて居室を使用する。居室以外のマスクの着用の徹底、常に手洗い、手指の消毒の促し、共有スペースの消毒などを徹底した。

余暇活動については年度の前半は自粛し、後半から密にならないように、室内活動のみの実施とした(季節柄の製作活動等)。利用者個々の日用品の買い物についても概ね職員が代行し、極力一般の方との接触を控えた。新型コロナウイルスについては長期化の傾向が見られるので、これらの対策は維持しながら様子観察したい。

研修については6月と2月に事業所内で虐待防止、権利擁護を意識した研修を実施して利用者支援の質的向上に努めた。

防犯対策については、引き続き各棟ごと施錠の徹底を行った。設備維持対策について、エコキュート配管の劣化に伴い、やまびこ棟、こもれび棟の配管補修を実施し、空調面については居室、リビングエアコンに不具合があったので補修した。

衛生管理面については新型コロナウイルス感染予防対策を事前に実施していた影響もあったのか、インフルエンザなどの感染症発症者は一人も出さず安心、安全な生活を維持できた。課題として感染症に複数発症した場合の体制の確保(隔離の場、職員の勤務体制等)が挙げられる。

8. 支援他

利用者の課題を共有し、本人、保護者の意向を汲み取り適切な支援を実施するため、コスモスホーム会議 12 回(月末の土曜日)、クルー会議 12 回(月末の水曜日)、メンバー会議 12 回(新型コロナウイルス感染予防のため今年度は書面のみの会議)ケース会議 6 回、個別支援計画作成のための面談を 3 回実施した。

利用率は 4 月に女性利用者 1 名退所となり新型コロナウイルスの影響もあり補充が難しい中、利用率も大幅に下がることが想定されたが、現在居住している利用者の土日の利用率が増えたことにより、前年度より 0.8%減となった。

9. 短期入所事業

新型コロナウイルス感染防止のため、5 月 1 日～6 月 30 日、1 月 23 日～3 月 31 日の期間は、短期入所の受入を休止した（外部の契約利用者に関しては 5 月 1 日から休止継続中）。今年度の新規契約については法人内利用者 2 名となり、利用総数については 99 名（令和元年度 400 名）となった。引き続き短期入所利用の要望は高く、緊急性を含めた利用が増えていくと想定される。